

# 青谷海岸(井手ヶ浜)の侵食対策について

■平成26年12月16～18日の冬期風浪により、大規模な海岸侵食(浜崖)が発生。

平成27年11月6日  
鳥取県 鳥取県土整備事務所

※延長400m、最大高さ7m程度

※有義波高4m程度以上が50時間程度継続(最高波高10.25mを観測)

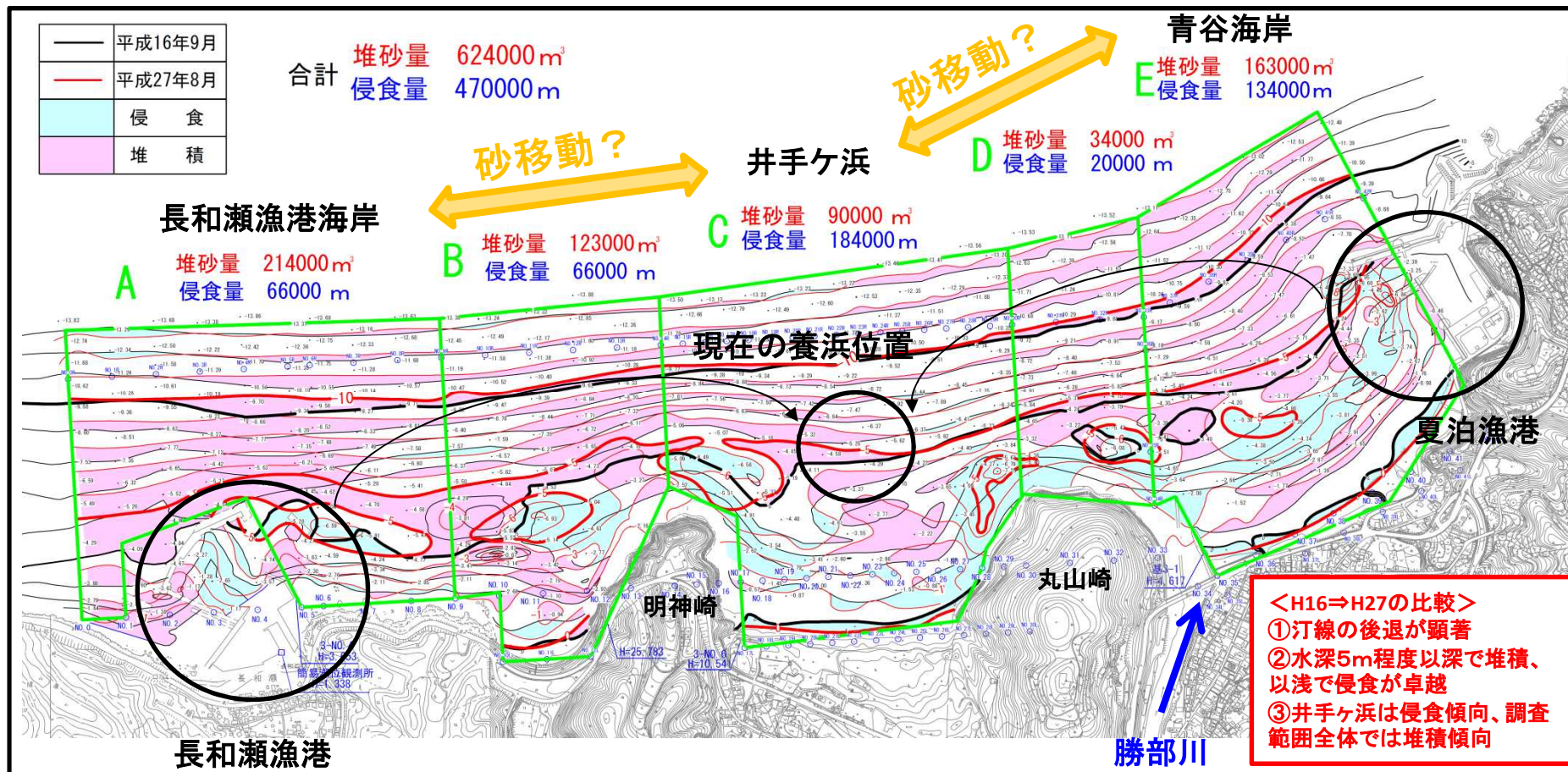


## 【海岸状況】

- 平成20年頃から汀線が後退傾向(特に東側が顕著)
- 平成24年頃から浜崖が進行し、平成26年冬の浜崖発達により、砂浜へのアクセスや景観が阻害
- 東側のやせた浜は、砂鉄の堆積が見られ、「鳴き砂」範囲の減少を懸念
- 浜崖については、飛砂等によりいくらか回復傾向



# 青谷海岸(井手ヶ浜)の侵食対策について



## 【深浅測量結果(H16⇒H27の比較)からの考察】

- 井手ヶ浜から東西方向への砂移動の可能性  
※ガイドライン(H17)では、当該海岸の砂移動はないと想定

## 【サンドリサイクルの現状】

- 夏泊・長和瀬漁港の浚渫土は、井手ヶ浜沖水深5m付近に養浜  
※浚渫量は、各漁港とも2,000~3,000m<sup>3</sup>/年程度
- 勝部川河口堆積砂は、宝木海岸(気高町)に仮置  
※鳴き砂への悪影響と夏泊漁港への再堆積を懸念  
※今後、井手ヶ浜沖への海上養浜を実施予定

## 【対応状況と今後の検討課題】

- ①各海岸、漁港の砂の特性調査(鳴き砂の特性把握) [実施中]
  - ・粒径、汚れ(強熱減量)、鉱物組成
- ②漂砂状況(砂移動)の調査 [検討課題]
  - ・井手ヶ浜から東西方向への砂移動の有無を把握するため、夏泊漁港から長和瀬漁港までの蛍光砂による漂砂調査の実施を検討
- ③効果的なサンドリサイクル手法の検討と一部試行 [検討課題]
  - ・①及び②の結果を踏まえ、各漁港及び勝部川河口の浚渫土砂による井手ヶ浜への効果的な海上養浜の手法を検討
  - ・地元や関係者の合意(鳴き砂へのリスクに対する理解)を前提に、井手ヶ浜における浜崖対策を主とした陸上養浜の一部試行を検討